

平成25年度第2回 西脇市ふるさと経営推進市民会議 会議録

開催日時	平成26年2月24日（月） 19時15分～21時00分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室2
出席者 ＜敬称略＞	(委員) 中川幾郎、天野孝美、生田伸吾、大嶋俊英、大西すず、 勝岡めぐみ、亀岡澄子、藤原孝三、藤原隆宏、 宮崎美椰子、吉田光一郎、大久保恵司、藤井志帆 ＜選出区分別50音順＞ (オブザーバー) 片山市長 (事務局) ふるさと創造部：黒崎部長 企画政策課：細川課長、萩原主査、澤田 まちづくり課：柳田課長、高瀬補佐 行政経営室：徳岡主査
傍聴者	なし（定員5名）

会議の概要

(次第に沿って進行し、意見等は以下のとおり。)

○片山市長あいさつ

- ・市民会議では、市にとって最も重要な自治基本条例、総合計画、行政改革と3つの分野について、皆さんからご意見をいただく。
- ・御承知のとおり、私は民間出身であるが、民間では投資をすれば必ずリターンがある。一方で、市役所では投資により住民の皆さんに安心して安全な、また、希望が持てる生活を守り、その住民からの市税で、さらなる投資につなげるという循環がある。
- ・新しい市役所をつくっていくために、本日も熱い議論を期待するところである

＜座長＞

- ・この会議の大きな役割としては、1つ目として総合計画がうまく進んでいるか、2つ目として自治基本条例が社会に定着していつているか、3つ目として行政改革が着実に進んでいるか、この3つが会議の役割である。

○議事(1) まちづくり市民アンケートの結果報告について

＜事務局＞

- ・平成25年7月に実施した市民アンケートの調査結果について報告
(説明内容については会議資料参照)

会議の概要（つづき）

○議事(2) 第6次行動計画（平成26～28年度）について

<事務局>

- ・行動計画の概要、掲載内容、第6次行動計画の主な新規・拡充事業について説明（説明内容については会議資料参照）

<座長>

- ・質問、意見等があれば伺う。

<委員>

- ・高度浄水施設の整備について、水道は県の水道を購入していると認識していたが。

<事務局>

- ・市内の給水の一部について、県水を受水している。既存浄水施設等の老朽化に対応するため、県水を受水により補完するほか、新たに浄水施設を整備することにより、多水源化を進め、水道水の安定的な供給に努める。あわせて、安心・安全な水道水の供給のため、紫外線処理等を行うこととしている。

○議事(3) 自治基本条例の推進状況及び来年度の取組について

<事務局>

- ・平成25年度推進状況（職員研修、アンケート等、審議会等の設置、会議の公開）と平成26年度の取組予定について説明（説明内容については会議資料参照）

<座長>

- ・質問、意見等があれば伺う。

<委員>

- ・アンケートの自由意見について、確認したい。

<事務局>

- ・後ほど詳細が分かるものを委員さんに提供させていただく。

○議事(4) 行政改革の推進状況について

<事務局>

- ・平成24年度行政改革大綱の取組結果、平成25年度事務事業評価について説明（説明内容については会議資料参照）

[補足説明]

◇平成24年度の主な取組

- ・自治基本条例の制定、後期基本計画の策定、21施設の電気契約を新電力へ移行、HPリニューアル、公式フェイスブックの開始、地球科学館への指定管理者導入等

◇効果額 約1億6,500万円

- ・うち職員人件費の削減が1億4,000万円程度となっており、効果額の大部分を占める。その他ふるさと納税や広報紙への広告掲載による収入増、新電力への見直しや事務事業の見直しによる支出の削減 など

会議の概要（つづき）

◇課題等

- ・合併直後は、事務の重複や過剰な職員など削減余地が大きく、3億円超の効果額があった。現在は、削減余地が少なくなっている。
- ・病院を除いた職員数で比較すると、本市は、類似団体の中で全国2番目の少なさとなっている。
- ・行革をこれ以上に推進する場合は、サービス水準の低下、さらなる人件費の削減、受益者負担金の増額などが必要となるかもしれない。

<座長>

- ・先ほどまでの説明を踏まえて、委員全員の意見・所感などをお願いしたい。

<委員>

- ・（行革）事業には開始する原因があるはずであるが、それがどういう経過で廃止・休止となるのか、内省が必要ではないか。
- ・（市民アンケート）雇用の問題はいつも出されるが、今後景気が回復していく過程などを踏まえ、これからどうしていくのか、旧来のやり方をどう変えるのかという視点を持ってほしい。

<委員>

- ・（市民アンケート）「地域」という用語がでてくるが、それは小学校区や隣保とか、どの程度のことをいうのか。

<事務局>

- ・「地域」の定義であるが、隣近所もあれば集落もある、行政区となる地区、学校区などもあり、ここでは特に限定していない。

<委員>

- ・（市民アンケート）アンケートは個人の満足度を測っているとのことであるが、昔の指標のように感じる。現代の「豊かさ」を測る指標に置き換えれば、と感じる。
また、自由記述欄を見ると「してください」が目立つ。参画と協働の理念がどの程度理解されているのか疑問で、課題と思う。
- ・（行政改革）事業の廃止などに当たっては、福祉の分野では、情報の非対称性（必要な人には必要な情報が行き渡りにくいこと）なども考慮し、十分な議論をお願いしたい。

<委員>

- ・（市民アンケート）西脇市に住んでみたい、という意識が低下したのは、ボランティアや人と人のつながりが煩わしいという面もあるのかな、と感じた。参画と協働の意識などがあってはじめて、住んでよかったと感じられるのかな、と思った。
- ・（行政改革）類似団体の中で2番目に職員数が少ないということを聞いて驚いた。

<委員>

- ・（行政改革）職員を減少させすぎると、ワンストップサービスなどで弊害が出てくると思う。職員の削減に当たっては、市民の利便性とのバランスにも考慮が必要ではないか。

会議の概要（つづき）

- ・（行動計画）企業誘致にも取り組んでおられると思うが、現在の図書館の跡地などに国の組織などを誘致できないだろうか。

<委員>

- ・（自治基本条例）参画と協働の意識も高まってきているとは思いますが、理解されていない市民もいる。積極的に情報を伝えていく、提供していくことが、市民の参画と協働へとつながっていくと感じている。

<委員>

- ・（自治基本条例）どこまで参画と協働ができているかと自問すると、私の専門の福祉分野ではできていても、他の分野については知らないことも多く、まだまだと感じる。
- ・（行政改革）事業の廃止・改善に当たっては、色々協議をされたことと思うが、その背景などを探ることが重要であると思う。

<委員>

- ・（行政改革）高齢者見守り隊活動支援事業は、どの程度の町で行われているのか。

<事務局>

- ・平成24年度については、委託事業として3町で実施している。

<委員>

- ・（市民アンケート）「年に1回以上まちづくり活動に参加」という項目については、回数を選択肢を増やしてはどうか。

<事務局>

- ・アンケートとしては、ほぼ毎日（週3～4日程度）、ときどき（週1～2日程度）、ときたま（月1～3日程度）、たまに（年1～3日程度）、などと段階的に区分して集計している。

<委員>

- ・（行政改革）参加者がなく廃止・休止に至った事業については、当該事業の情報提供などが十分であったのか、と思う。また廃止に当たっては十分な説明をお願いしたい。
- ・（行動計画）茜が丘複合施設については、市民の注目も集まっている。バスなど移動手段を確保してもらえると、利用が増えると思う。テラドームについては市民の中でも利用したことがない人がいると思う。PRなどをお願いしたい。
- ・（自治基本条例）まちづくり補助金の見直しとあるが、削減、拡充など、見直しの方向性はどのようなものか。

<事務局>

- ・補助金の額の増減も検討するが、それよりも使い勝手の良さ、ボランティアやまちづくり活動が広がっていく方法などについて検討したい。

<委員>

- ・（市民アンケート）高齢の方からの自由意見と思うが、にぎわいが減った、歩道を整備してほしいなどの意見がある。また、住み続けたい・愛着がある・暮らしやすい、などの意識が低下していることが残念。若者が住みやすいまち、高齢者が安心して住めるまちというものを目指す必要がある。

会議の概要（つづき）

- ・萩ヶ瀬会館での取組などを黒田庄地区でもやってみたい。空き家などを活用して、老人クラブなどに参加できない高齢者が集まれる場所ができれば、と感じる。
- ・萩ヶ瀬会館での活動は活発であるが、駐車場の狭さが懸念される。

<座 長>

- ・駐車場についてはここで回答は難しいと思うが、要望として聞いておいてほしい。

<事務局>

- ・空き家については、空き家バンク等の運営もはじめ、定住促進につながるような方法を検討していきたい。

<座 長>

- ・行政主導で空き家を交流の場として設定するのは、安全面なども含め、難しいかもしれない。そのような分野ではNPOをはじめとした民間の参画を期待したい。

<委 員>

- ・（行動計画・行政改革）着実に進めていただきたいと思うが、そのプロセスを明らかにするようにしてほしい。
- ・（市民アンケート）アンケートの数値の増減は記載されているが、その背景が何であるか、その結果を踏まえてどうするのか、という説明があれば、と思う。
- ・アンケート項目が多数になるので、ある程度項目ごとに分け、項目ごとに自由意見欄を設ければ、有益な情報が集まるのではないか。
- ・60歳以上で回答数の半数を占めている。マジョリティの意見を聴く意味では必要なことであるが、30歳代、40歳代などの次世代の意見などが埋没してしまう。これからの西脇を考える上で、世代別に考えを聞くことも大切ではないか。

<委 員>

- ・（市民アンケート）アンケートはよくまとめられているが、これをどう生かしていくか、どう反映させるかが重要と思う。数値が低い場合に、何が問題となっているのか把握するような調査も必要で、対策のようなものも記載できればいいと思う。

<委 員>

- ・（市民アンケート）評価に当たっては便宜上、数値を使うことになると思うが、一方で、数値だけで判断していいのか、という思いもある。
- ・アンケートや行政にまったく無関心な層もある。こういった人たちも取り込んでいく仕組みが大切と思う。

<座 長>

- ・行財政改革の評価基準や事務事業評価の背景・思想はなにか、という話があった。それはコストダウンであり効率性である。政策が有効であったかどうかの検証について総合計画の進行管理等で行うことが適切と思う。
- ・事業の廃止について数人の委員から話があったが、その事業についてはニーズがなかったために事務事業評価の観点から廃止となったが、事業のやり方が適切であったかは今後の検討課題ということになる。

会議の概要（つづき）

- ・複数の委員から市民アンケートの結果をどう分析し、次の政策に生かすことが課題であるとの指摘があったが、どうか。

<事務局>

- ・御指摘のとおり、このアンケートでは課題解決のための施策には言及できていないことは認識している。一方で行政においては分野ごとに個別の計画を持っており、その推進の中で、より詳細に課題を把握し、施策や事業に反映していくことが必要と考えている。

<座長>

- ・無作為抽出では次世代の意見が埋もれてしまう、との指摘があった。この世代は時間のゆとりも少なく、世代を限定したアンケートを実施しても難しいかもしれない。協力者へのインタビューなどの手法も検討に値するかもしれない。
- ・無関心層へのアプローチの方法を考える、ということも大きな課題である。

○報告 西脇市ふるさと経営推進市民会議開催要領の改正について

<事務局>

- ・市では附属機関と懇談会等の取扱いについて、整理を進めている。この市民会議については、特にその内容に拘束力を持たせるものではなく、自由な意見をいただき、参考にしていきたいという考えを持っている。については、市指針に基づいて、市民会議の運営ルールとなる開催要領を改正したので報告する。
- ・来年度からは、市で司会進行し、座長にはオブザーバーの立場で意見をいただくが、会議の内容に大きな変化はないので、今後も参加をお願いしたい。

○その他

<事務局>

- ・時期は未定であるが、来年度も3回程度開催したいと考えている。